

研究所だより

編集・発行

千葉県長生地方教育研究所

茂原市東郷2300-1

TEL 0475 (24) 9721・FAX 0475 (23) 4820

H P <http://www.choseikaikan.or.jp/>

メール kenkyujo@beach.ocn.ne.jp



「千葉県教育の現状と課題について」

千葉県教育庁東上総教育事務所

所 長 鉄 井 修 一

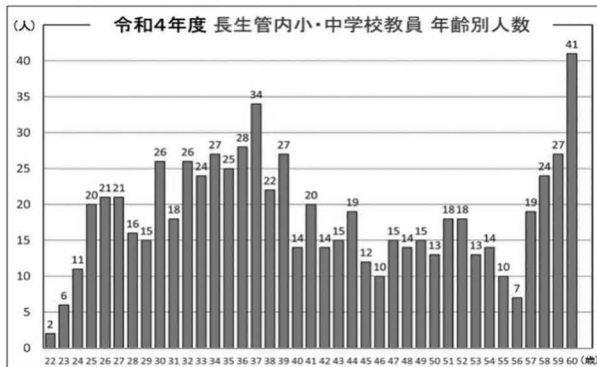
1 はじめに

昨年度に引き続き、令和4年度も東上総教育事務所長としてお世話になることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

東上総教育事務所は、「すべては子どもたちのために」という運営方針の下、教育事務所の役割を「学校・家庭・地域の応援団」と位置付け4SEEC〔スマイルを忘れずにスピード感をもって、市町村（組合）教育委員会並びに学校に対し心を込めてサービス、サポートを行います。教育のエキスパートとしての責任感を持ち、常にコンプライアンスを重視し、職務にあたります。〕をスローガンに掲げ、取組を進めてまいります。どうぞ御理解、御協力をお願いいたします。

2 管内の人事上の課題について

さて、長生管内の小中学校の教員（校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、行政出向者）の年齢分布を下に示しました。横軸が年齢、縦軸が人数です。



グラフからは、40歳代の教員が少ないのに対し、20～30歳代及び56歳以上の人数が多いことが読み取れます。つまり、今後5年間にベテラン層が大量に退職し、それと同等の新規採用者を新たに任用する必要があることから、現在よりさらに各学校に勤務する若手教員の割合が増していきます。この傾向は、県内他地域でも共通しており、ここから考えられる課題は3点あります。

(1) ベテラン層の教育実践の継承

これまで学校を支えてきたベテラン層の先生方の教育技術を新規採用者をはじめとする若い世代がどのように受け継ぎ、学校の教育力低下を防ぐのか。

(2) 学校のリーダーや管理職候補者の育成

40歳代の中堅層が少ない中で、学校の核となり、さらには管理職候補となる人材をいかに育成するのか。

(3) 臨時的任用講師の不足

20歳代～30歳代の教員が増える中で、産休・育休者が増加しており、代替講師の確保が間に合わない状況が起き始めている。

これらの課題に対し、各学校では、教育実践の継承とチーム学校を意識した組織的・計画的な人材育成が求められます。市町村教育委員会や長生地方教育研究所においても、様々な形で人材育成を進めていただいておりますが、県教委や教育事務所でも、「学力向上交流会」「スクールリーダー養成講座」などを実施しています。臨時的任用講師の確保については、大学への働きかけ及び講師登録会の広報強化等による若年者への働きかけと合わせ、学校や市町村教育委員会と連携しながら、以前退職された先生方の状況について情報共有し、講師を務めていただくことをお願いするなどの取組を行っています。

東上総管内の学校、市町村（組合）教育委員会、教育事務所が思いを1つにしてこれらの課題に取り組み、児童生徒の学びを充実させていきましょう。

3 学校における働き方改革について

千葉県教育委員会の「学校における働き方改革推進プラン」に示されている目標は、「業務量の適切な管理等に係る取組を推進し、原則として、条例等で定める勤務時間を超える在校等時間が、1か月当たり45時間、1年当たり360時間を超えないようにする。そのため、『子供と向き合う時間を確保できている教職員の割合』が令和5年度までに100%、『勤務時間を意識して勤務できている教職員の割合』が令和4年度までに100%となるよう、段階的に引き上げる」としています。

そのような中、令和4年2月9日、昨年11月及び12月に実施された県内調査の結果が公表されました。県内の月当たりの時間外在校等時間が45時間を超える教諭等の割合は、小学校で50.9%、中学校で63.8%でした。これは、高等学校の31.1%、特別支援学校の10.2%と比較しても大変悪い数字となっており、今後さらなる改善に向けた取組が求められています。

「子供と向き合う時間が確保できている」と回答した教諭等の割合は64%、「勤務時間を意識して勤務できている」と回答した教諭等の割合は79%であり、共に令和3年度の目標数値を達成することはできませんでした。

令和4年1月28日、文部科学省から働き方改革について発出された、取組状況調査結果等に係る留意事項によれば、今後、「学校及び教師が担う業務の役割分担・適正化について」「学校行事の精選や見直しについて」「ICTを活用した校務効率化について」「教員業務支援員（スクールサポートスタッフ）について」「部活動について」十分に進んでいない取組等を検証するとともに、重点的に取り組む内容を特定するなど調査結果を十分活用するよう通知されています。

各学校、市町村（組合）及び県教育委員会が一体となつて、管内教職員の働き方改革をもう一步前へ進めていきましょう。

長生郡・茂原市小・中学校「研究主題と研究仮説等」

長生郡・茂原市小中学校の「研究主題と研究仮説等」について紹介いたします。各学校の研究に役立てていただければと思います。

学校名	研究主題	研究仮説・視点	教科・領域
東郷小	新たな価値を生み出す児童の育成 ～「実感を伴う学び」を実現し、「学びにつながる」学習指導の工夫～	児童が思考し、表現する一連の過程を大切にし、発問や学習活動を工夫することで、児童は音楽の学びをより実感することができ、音楽に対する感性が育まれ、次への学びへつなげることができるであろう。	音楽科
豊田小	自己の生き方を見つめ、主体的に判断し、よりよく生きる児童の育成 ～ICTを活用し、自分の考えを広げ、思考を深める道徳の授業づくりを目指して～	1 児童の思考を揺さぶる学習課題や発問を工夫することで、主体的に考え、自己の生き方について見つめ直し、考えを深めることができるだろう。 2 学び合う学習活動を通して多面的・多角的に考えを深めることで、幅広い視野から判断し、よりよく生きるための思考力を養うことができるだろう。	特別の教科 道徳
二宮小	「わかる」楽しさ、「できる」喜びを味わえる授業づくり ～基礎・基本の定着を図る算数科指導を通して～	1 児童が興味・関心をもつことができる素材や教具を発達段階に応じて工夫すれば、わかる「楽しさ」を味わうことができるだろう。 2 具体物を使った操作活動やICT機器を活用した授業を展開すれば自力解決でき、「できる」喜びを味わうことができるだろう。	算数科
茂原小	自ら考え判断し、表現できる児童の育成 ～読む力を育む国語科学習の在り方～	1 児童が主体的に取り組める学習過程を設定し言語活動を工夫すれば、目的意識をもって文章や言葉と関わり、読む力が高まるであろう。 2 児童の発達段階を踏まえた交流の仕方が分かり、互いに学び合う場面を設ければ、自分の思いや考えを伝えたり、他者の考えを理解したりできるであろう。	国語科
西小	主体的に探求する児童を育てる学習指導の在り方 ～「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用した授業改善～	「見方・考え方」を働かせた授業展開を実践すれば、主体的に学びを探求し、思考し表現する力を高めることができるであろう。	算数科
五郷小	どの子にも「わかる」「できる」楽しさを味わわせる学習指導 ～ICTを効果的に活用するための授業実践の工夫～	ICTを効果的に活用し、考えを広め深める手立てを工夫すれば、様々な場面において「わかる」「できる」楽しさを味わうことができるであろう。	算数科
鶴枝小	情報を的確に理解するための「読解力」を向上させる指導法について ～様々な資料の読み取りをふくめた読解を通して～	学校全体の共通理解のもと系統性をもって読み取りの指導を継続して行えば、読解力の向上が図れるであろう。	国語科
萩原小	「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくり ～じっくり考え、表現する力を高める指導の工夫～	1 「実践モデルプログラム」を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、学習意欲、思考力、表現力の向上を図る。 2 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、「チーム萩原」として児童の実態を学校全体で共有し、資質・能力を身に付けた児童の具体的な姿を描き、組織的・継続的に指導方法の工夫を重ねる。	算数科を中心

学校名	研究主題	研究仮説・視点	教科・領域
中の島小	自ら考え、主体的に問題解決に取り組む子どもの育成 ～思考を促す指導法の工夫を中心に～	児童に思考を促すような教師の働きかけを工夫すれば、児童が数学的な見方、考え方を見出し、主体的に問題解決に取り組むことができるであろう。	算 数 科
本納小	小中一貫教育における、本納中学校区4校の効果的な小中連携のあり方 ～9年間を見通した学習環境づくりを目指して～	1 「本納中学校区めざす子供像」の具現化に向けた学習指導の実践 2 児童が見通しをもって主体的に考え、行動するための生活、学習環境づくり	全 教 科
新治小	学校統合に向けた学校間連携のあり方 ～組織的な取り組みを通して～	組織づくりによる計画的な統合推進	全 教 科
豊岡小	数学的活動を通して、数学のよさを実感できる授業づくり		算 数 科
東部小	思考力・表現力の育成を目指す授業づくり ～算数科の指導の工夫を通して～	児童の実態や学習のねらいに応じたノート指導を継続して行い、考えの共有の仕方を工夫すれば、自らの考えを表現できるようになり、思考力・表現力が育つであろう。	算 数 科
東浪見小	自ら考え、判断し、表現することができる児童の育成 ～読むことを通して考えを深め、思いを表現する指導の工夫～	1 言葉による見方・考え方を働かせる授業を実践すれば、読む力の基礎を身に付けることができるであろう。 2 並行読書を積極的に行えば、教材で培った見方・考え方を生かして、児童が主体的に思いを表現することができるであろう。	国 語 科
一宮小	仲間と高め合い、地域とつながり、作りだす喜びを実感する児童の育成 ～図画工作科における「もの・こと」、「人」との対話を通して～	1 児童が主体的に造形活動に取り組み、表現力を高める。(豊富な素材・材料との出会い、意欲が高まる導入、児童一人一人に適した場の設定、校内環境の整備、美術的な作品の掲示等) 2 児童が共に関わり合いながら、造形的な力を伸ばす。(よさやイメージを共有するためのミニ鑑賞会の実施、柔軟な学習過程や題材設定等) 3 児童が生活や社会と豊かに関わる態度を育む。(地域の特性をいかした活動、地域との連携、ゲストティーチャーによる出張授業等)	図画工作科
睦沢小	豊かな人間力や社会力を身に付け、自ら一歩をあゆみ出す15歳の育成 ～系統的・横断的な指導によるコミュニケーション能力の育成を中心として～	1 コミュニケーション能力を育成するため、国語科の学年段階における学習内容と関連付けた系統的・教科横断的な学習を展開する。 2 豊かな人間力(人が人とつながり、社会をつくる力)を育成するため、友達や地域の大人とかかわりあう地域づくりの活動を取り入れる。	総合的な学習の時間・生活科
一松小	生きる力を支える確かな学力を身に付けた児童の育成 ～算数科におけるICTを活用した基礎的・基本的な内容の習得を通して～	基礎的・基本的な内容の習得を図る手立てや学習したことを活用する場を、ICTを活用し、個に応じた方法を工夫すれば、児童の意欲を高め、確かな学力を身に付けることができるであろう。	算 数 科
八積小	主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくり ～算数科における学習過程での工夫を通して～	身に付けさせたい力を、目指す子どもの姿とし、明確にしながらから学習することで、児童の数学的な見方・考え方が働き、深い学びを実現させることができるであろう。	算 数 科

学校名	研究主題	研究仮説・視点	教科・領域
高 根 小	楽しみながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ～外国語科・外国語活動の授業実践を通して～	1 単元ごとにつけたい力を明確にし、児童の興味・関心が持てるコミュニケーションの場（目的・場面・状況）を設定すれば、進んで活動に取り組むことができるであろう。 2 単元を通して、インプット・アウトプット場面の工夫をすれば、単元やフレーズなどの音声に慣れ、進んで話したり、聞き取ろうとしたりすることができるであろう。	外国語科・ 外国語活動
白 湯 小	自ら考え、表現できる子どもの育成 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「主体的・対話的で深い学び」を目指す国語科学習指導の工夫～	1 題材を精選して目的意識をはっきりともたせ、教材・教具・資料の工夫をすることで、児童が自分の思いや考えをもち、表現することができるであろう。 2 自分の考えと友達の考えを比較し、相違点・共通点を見つけたり、質問し合ったりした上で、再度自分の考えを検証・深化させていく活動を継続指導することで、児童の思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。	国 語 科
南 白 亀 小	よく考え、自分の考えを表現できる児童の育成 ～主体的に学ぶための、ICT活用場面を工夫した授業づくり～	1 ICT機器の活用や指導方法の工夫によって、児童が自ら自分に合った学習方法を選択することができ、子ども同士のより多様な意見交換や発表などができるようになる。それによって、自ら解決する喜びを感じ、自分の考えを進んで発表できる子が育つであろう。 2 学習活動を自ら振り返り意味づけたり、身に付いた資質・能力を自覚できるような評価の工夫を取り入れたりすることで、自ら課題を見つけ主体的に学習する子が育つであろう。	全 教 科
関 小	一人一人が輝き、「わかる」「できる」喜びを味わえる授業づくり ～基礎・基本を生かして主体的に学習する児童の育成～	1 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る手立てや個に応じた支援方法を工夫していけば、「わかる」「できる」喜びを一人一人に味わわせることができるだろう。 2 見通しやふり返りの場面を取り入れ、学び合う場の設定を工夫すれば、児童の学習意欲を喚起し、他者と関わり合いながら思考しようとする態度を育てることができるだろう。	算 数 科
長 柄 小	伝え合う喜びを実感できる児童の育成 ～ICTの効果的な活用とカリキュラム・マネジメントを通して～	児童が主体的に活動できる素材や教具・ICT機器を工夫してとりいれたり、伝え合い・振り返る活動を意図的に設定したりすれば、児童は伝え合う喜びを実感できるであろう。	全 科
日 吉 小	自己を見つめ、考え、共によりよく生きる子どもを育てる道徳教育 ～多面的・多角的に考え、深める道徳科の実践を通して～	1 教材の選択 2 指導の工夫 3 評価 4 他の教科や教育活動との関連	道 徳 科
長 南 小	主体的・対話的に体育学習に取り組む児童の育成 ～長南モデル「できる・わかる・かかわる」活動の実践を通して～	児童の実態に適した課題を設定し、友達と関わり合いながら課題解決できるような学習を展開することで、運動を楽しむ児童を育成することができるだろう。	体 育 科
東 中	自ら学び、確かな学力を身につけた生徒の育成 ～指導と評価の一体化に向けた授業の改善～	「指導と評価の一体化」に向けて授業改善し、思考・判断・表現する場면을効果的に設定し、学ぶ楽しさを実感できるわかる授業を実践すれば、自ら学び、確かな学力を身につけた生徒を育成することができるであろう。	全教科・領域
富 士 見 中	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業のあり方 ～ICT機器の活用を通して～	1 動画などを効果的に取り入れることで、生徒の学習意欲が高められるであろう。 2 リアルタイムで比較検討し、自分の考えや他の人の考えを共有することにより、学習内容の理解を深められるであろう。 3 タブレット端末などを活用することにより、ドリルによる反復学習を定期的に取り入れやすく、生徒一人一人の基礎学力の向上が図れるであろう。	数 学 科 ・ I C T

学校名	研究主題	研究仮説・視点	教科・領域
茂原中	豊かな心と確かな学力を身に付けた生徒の育成 ～授業力の向上を通して～	豊かな人間関係づくりを土台とした「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、「授業づくりのグランドデザイン」を取り入れた学習の充実、「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用促進し、授業力の向上を図ることで、自己実現に向けた将来の夢をもち、社会で生き抜くための判断力や人間関係調整力を育み、「豊かな心」と「確かな学力」を身に付けた生徒を育成できるだろう。	全教科・領域
南中	自ら学びに向かう生徒の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす授業への取組をととして～	各教科の特性を生かし、学習指導要領の趣旨を理解して、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業実践を行うことで、自ら学ぶ生徒の育成につながるであろう。	全教科
本納中	未来に向けた学びの創造 ～新しい時代を生き抜くための資質・能力の向上に向けた取り組みを通して～	1 学習の過程で、自分の考えをもち、表現することや伝え合ったり、話し合ったりする中で、実験・調査や思考・判断などの学習の場を意識し、学んだ知識・技能を生かした授業づくりを行えば、生徒はお互いにその考えを深め合うことができるであろう。 2 学びのゴールを明確にし、それに基づいた授業改善により、さらに「学びの本質」に迫った授業を展開することにより、子どもの学びにより深く根ざすことができるであろう。 3 評価の在り方を工夫し、「学びの結果としての学習評価」(Evaluation)に加えて、「学習過程の中で学び手がどのように向上したかを見取り、支援する評価」(Assessment)を評価の視点に加えることや学びのユニバーサルデザイン(UDL)に向けた教育実践を行うことを通して、より一人一人の生徒に寄り添ったカリキュラム・マネジメントや個別の支援を行うことができるであろう。	全教科
早野中	主体的に学んで確かな学力を身につけ、自己の思い描く進路の実現を目指す生徒の育成	1 導入・展開時に生徒の関心を高められる効果的な教材を活用し、課題を解決する学びの場の工夫、改善をすれば、自ら学ぼうとする意識が高まるであろう。 2 進路学習を充実させ、将来の自分の姿を見つめる機会を多く設定すれば、目標とする姿が想像できるようになり、今自分がなすべきことを理解するであろう。	全教科
一宮中	夢をもち、創造し、自らの力で切り拓き、お互いを認め合う生徒の育成	1 生徒主体の行事や活動の計画を実施し、達成感や成就感を味わわせることで、自らの力でものごとを切り拓く主体的・自治的な態度を育成することができるであろう。 2 社会貢献プロジェクトやボランティアに参加し、福祉を知ることでお互いを認め合う豊かな心を育成できるであろう。 3 アートに触れて自分で創造したり、パラスポーツを体験したりすることで豊かな心と健やかな体を育成することができるであろう。	福祉教育 造形教育 心のバリアフリー教育
睦沢中	豊かな人間力や社会力を身につけ、自ら一步をあゆみ出す15歳の育成 ～系統的・横断的な指導によるコミュニケーション能力の育成を中心として～	1 コミュニケーション能力を育成するため、全ての教科で目的や場面に応じた対話活動の充実や探求的な課題作りを意識した、系統的・教科横断的な学習を展開する。 2 豊かな社会力(人が人とつながり、社会をつくる力)を育成するため、総合的な学習の時間を通して、地域を知り、地域について学び、地域の大人と接する中で街づくりや地域活性化につながる活動を取り入れる。	総合的な学習の時間
長生中	「確かな学力」を身に付けた生徒の育成 ～「思考し、表現する力」を高める授業を通して～	「思考し、表現する力」を高めるための授業改善を進めることにより、主体的に課題に取り組み、自らの考えを形成し、伝え合う過程を繰り返すことで、「確かな学力」を身に付けた生徒を育成できるであろう。	全教科

学校名	研究主題	研究仮説・視点	教科・領域
白子中	自己実現に向け、自ら学び、思考し、表現できる生徒の育成	1 学習課題を明確にし、課題を解決する学びの場の工夫・改善をすれば、一人一人が考え、活動するようになり、主体的に学ぶ態度が育つであろう。 2 授業の振り返りをする場を工夫すれば、主体的に取り組み、それが深い学びとなり、思考力・表現力が高まるだろう。	全領域
長柄中	学ぶ喜びを感じ、主体的に学習に取り組む生徒の育成 ～指導法の工夫・改善を通して～	1 自分の言葉で書く活動を工夫し、発表する場を充実させれば、思考力・表現力が高まるであろう。 2 魅力ある題材を精選し、教材・教具・資料の効果的な活用方法を工夫すれば、生徒は興味・関心をもち、学習意欲が向上するであろう。 3 学びのユニバーサルデザイン化に向けた教育実践を行い、単元または毎時間の授業において見通しをもたせることで、生徒の学ぶ意欲が高まり、主体的に学ぶ態度が育つであろう。	全教科
長南中	確かな学力を身に付けた生徒の育成 ～「見通し」と「振り返り」活動に着目して～	生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れることにより、主体的に学習する態度が育ち、確かな学力の獲得へとつながるだろう。	全教科

令和4年度長期研修生紹介

長期研修は、現職の教員に対し公務による長期の研修の機会を与え、学校教育実践上の諸活動に関する研究を行うとともに、諸研修を通して教育専門職としての資質能力を高め、千葉県教育の推進者及び指導的な立場の教員を育成することを目的としています。

今年度は、長生地区から4名の先生方が長期研修生として大学等で研修を進めていますのでご紹介します。



☆国語科☆

茂原市立東郷小学校
太田和 紘子

〈研究主題〉

書くことにおいて、自らの考えを豊かに表現できる児童の育成
～思考に関わる「言葉」の習得・活用～



☆理科☆

茂原市立中の島小学校
渡邊 耕一

〈研究主題〉

理科学習の粒子の実感を高める授業づくり
～第4学年「雨水のゆくえ」を通して～



☆算数科☆

白子町立関小学校
吉原 慎司

〈研究主題〉

データの活用領域における多面的に考察することができる児童の育成
～統計的探究プロセスの活用を通して～



☆総合的な学習の時間☆

一宮町立一宮小学校
樋口 陽樹

〈研究主題〉

活力と魅力ある一宮町の創り手の育成
～ESDの視点に立ったプロジェクト型学習を通して～



長生地方教育研究所 のご案内

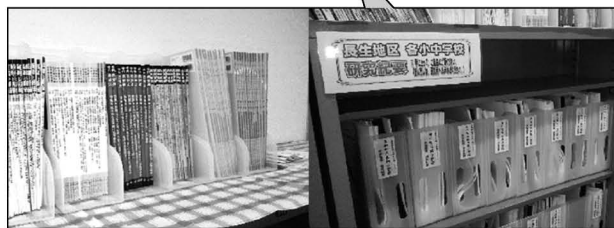


<長生地方教育研究所とは？>

設立…昭和44年4月

目的…長生地区における教育の振興を図ること

所在…長生教育会館2階



<主な事業①>

各市町村から選出された教員(=所員)が、調査部・研修部・情報部(旧:教育史部)を構成し、調査研究・資料収集・情報発信等を行っています。

(歴代所員・協力員のべ436名(令和3年度末))

※令和4年度の所員・活動内容は8ページ参照

これまでの活動内容・刊行物の一例

調査部

- ・情報モラル教育に関する調査研究
- ・家庭学習に関する調査研究
- ・運動部活動に関する調査研究
- ・小学校における外国語科の先行実施による成果と課題
- ・働き方改革に関する調査研究
※研究紀要第47集まで発行済み

研修部

- ・研究所だよりの発行
※第160号(本号)まで発行済み
- ・千葉県長期研修生研究発表会の開催
- ・教育資料、教育図書の収集・整備

教育史部(平成24年まで)

- ・長生地方における小中学校の変遷
- ・長生地区の伝統文化に関する研究
- ・長生地方における子どもの遊びの研究

情報部(平成25年から)

- ・長生地区の指導案収集・データベース化
- ・指導要録入力用ファイルの作成
- ・各種法規・指針等のデータベース化
- ・オンライン会議方法の検討・準備

<主な事業②>

各種研修会の企画・運営

①学校経営研修会

- ・学校経営・教職教養等に関する研修会
(管理職を目指す方におすすめ)
- ・年間9回実施(年度初めに参加希望者募集)

②教育研修会

- ・教育研究・教職教養等に関する研修会
(長期研修を目指す方におすすめ)
- ・年間7回実施(年度初めに参加希望者募集)

③教務主任研修会

- ・教務主任のキャリアを深める研修会
- ・年間5回実施

④研究所研究発表会・長期研修生研究発表会

- ・研究所各部の研究発表
- ・前年の長期研修生の研究発表
(長期研修を目指す方、教研集会の提案者におすすめ)
- ・年1回 ※詳細は8ページ参照

<主な教育資料・教育図書>

※閲覧は自由です。貸し出しもしています。

学習指導関係

- ・教科書
※全教科、各出版社が揃っています。
- ・小・中学校学習指導要領
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(全教科)

研究・研修関係

- ・長期研修生研究報告書
※歴代の研究報告書が揃っています。
- ・長生教研レポート
- ・各学校等の研究紀要

教育関係書籍

- ・「初等教育資料」(学事出版)
- ・「中等教育資料」(学事出版)
- ・「教職研修」(教育開発研究所)
- ・「教育法」(エイデル研究所)
- ・「指導と評価」(日本教育評価研究会)

<ご利用・ご活用方法>

方法①長生地方教育研究所の扉をノック。

方法②0475(24)9721(教育会館)に電話。

(「研究所に用がある」旨を伝えてください)

方法③kenkyujo@beach.ocn.ne.jpにメール。

☆どなたでも、上記①～③いずれかの方法でご連絡ください。

窓口は研究所の主事です。

☆資料の検索や貸し出し、指導案やレポート作成の相談など、どんなことでもお気軽にどうぞ。

☆出張等で長生教育会館に来館された折りには、特にご用件がない方でも、ぜひお立ち寄りください。

令和3年度長期研修生研究発表会について

昨年度の長期研修生の研修成果を地域で共有することを1つの目的として、研究発表会を行います。該当教科の研究内容に興味のある方はもとより、長期研修を目指している方、教研集会での提案者となっている方は、ぜひご参加ください。先進的な研究内容やレポートのまとめ方など、参考にしていただければと思います。

多くの先生方のご参加をお待ちしております。

○期日 8月1日(月)午後1時30分～

○場所 長生教育会館 大会議室

☆国語科☆ 茂原市立茂原小学校 渡邊 紘志

〈研究主題〉

主体的な読者を育み、多角的に読む力を高める指導の研究～記念館活動を通じた多様な読書活動やICTの活用による協働的な学習の実現～

〈研究の概要〉

文学の学習指導は、教科書教材の読解にとどまり、心情を中心とした教師主導の受動的な授業が行われてきた。これからは、読者が主体となり、自らの考えを多様な解釈に触れながら形成し、多角的に読む力を育成することが必要である。そこで、複数の宮沢賢治作品を多様な読書活動を通して主体的に読み、多角的に解釈したことを展示物に表現することや異質性のある他者と協働的に学習するためにICTを活用することを組織した記念館活動の単元を開発した。この研究を通して、主体的な読者となって自らの考えを形成し、多角的に読む力を高める指導の知見を得た。

☆体育科☆ 睦沢町立睦沢小学校 佐藤 章雄

〈研究主題〉

陸上運動における技能向上につながる対話型学習の在り方～子供とつくるコミュニケーションデザインマップの活用を通して～

〈研究の概要〉

第5学年において、技能向上につながる具体的な対話を「伝える」「聴く」の2観点に分けて児童と評価指針(CDM)を作成した。これを活用して児童相互評価を取り入れ、2つの力がどのように高まり、技能向上につながったのかを明らかにした。全発話数18302文を発話カテゴリーに分類したところ、①技能向上につながる対話と技能向上に②「伝える」と「聴く」に③自己評価と他者評価にそれぞれ強い相関関係が認められた。このことから、CDMを作成・活用することで双方向の対話ができるようになり、技能向上にも有効であることが示唆された。

☆外国語科☆ 一宮町立一宮小学校 大多和 絵美

〈研究主題〉

自分で考え、伝え合う英語力を育てるSmall Talkの指導～相手意識をもって、主体的にコミュニケーションを図ることができる児童の育成～

〈研究の概要〉

小学校外国語科「話すこと」[やり取り]の活動において、目的や場面、状況に応じて、自分で考え、伝え合う英語力を育成するためのSmall Talkの指導実践を通して、その指導効果を検証した。小学校6年生の授業において、やり取りの場を増やすため、授業の始めと終わりの2回Small Talkを行った。また、既習表現と単元のゴールを照らし合わせた系統的な指導や、ICT機器を活用した振り返りも行った。その結果、目的や場面、状況に応じて、自分で考え、伝え合う英語力や相手意識をもって主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成することができた。

研究所の紹介

所長 矢部 重秋 (茂原市立五郷小学校校長)



今年度、研究所長としてお世話になってます。長生地方教育研究所では、先生方の教育実践のお力添えができるよう役立つ情報の提供や各種研修を行っています。所員一同精一杯活動してまいりますのでぜひご活用ください。

主事 常世田 伸吾 (睦沢町立睦沢小学校)



どなたにでも「訪れやすく、活用しやすい研究所」を目指して、各種の活動に取り組んでまいります。資料の検索や貸し出し、指導案やレポート作成のご相談など、何でも承ります。いつでもお気軽にお立ち寄りください。

調査部

〈研究主題〉

SDGsの実現に向けた取組に関する調査



御園 翼 (長南町立長南中学校)
芝田 稔弘 (睦沢町立睦沢小学校)
齋藤 智樹 (茂原市立豊田小学校)
鷹田 育栄 (長生村立高根小学校)

SDGsの実現に向けた長生都市小・中学校や全国での取組を調査して紹介します。今年度は、アンケート調査を実施し、来年度に紀要としてまとめる予定です。

研修部

〈研究主題〉

教育課題の改善にむけた効果的な情報提供



岡澤 尚樹 (長柄町立長柄中学校)
渡邊 幸久 (長柄町立長柄小学校)
鈴木 謙一 (白子町立白瀧小学校)
小茂田 愛 (一宮町立一宮中学校)

「研究所だより」を年3回発行し、教育実践や教育研究等の参考となる資料を紹介します。また、研究紀要発表会や長期研修生報告会などの研修会の運営を行っています。

情報部

〈研究主題〉

研究の深まりと校務の効率化を目指して



森 好美 (白子町立白瀧小学校)
今村 賢司 (茂原市立茂原小学校)
永野 和哉 (茂原市立萩原小学校)
中田 聡美 (茂原市立本納中学校)

現場の教育研究、実践に役立つ教育資料の作成と紹介をします。また、GIGAスクール構想の実現に向けた情報の収集やシステムの構築にも取り組む予定です。